地域の人々との関わりを考え、
生活をよりよくしようとする態度を育む
小学校家庭科学習指導

――　「関わりマップ」を活用した題材構成の工夫を通して　――

長期研修員　　橋本　晶子

《研究の概要》

本研究は、新小学校学習指導要領において新たに示された「家族や地域の人々との関わり」と「家族・家庭生活についての課題と実践」を関連付けて題材構成し、指導することで、地域の人々との関わりを考え、生活をよりよくしようとする態度を育むことを目指したものである。まず、「家族や地域の人々との関わり」において、地域の人々と関わる体験を行い、気付きや思いを共有することで、児童は、地域の人々と協力することの大切さを知る。次に「家族・家庭生活についての課題と実践」において、共有した気付きや思いを振り返ったり、これまでの生活を見つめたりする活動を通して、生活をよりよくするための課題を各自が設定し、地域で実践する。さらに、実践発表会で友達の発表を聞くことで、新たな課題を見いだし、生活をよりよくしようとする態度を身に付けられるようにした。

キーワード　【家庭－小　地域　関わり　家族・家庭生活　題材構成】

群馬県総合教育センター

分類記号：Ｇ０７－０２　平成３０年度　２６７集

Ⅰ　主題設定の理由

小学校学習指導要領解説家庭編（平成29年７月）では、これまで示されていた四つの内容が、「Ａ家族・家庭生活」、「Ｂ衣食住の生活」、「Ｃ消費生活・環境」に関する三つの内容に再編された。これは、児童生徒の発達を踏まえ、小学校・中学校共に同じ枠組みで体系化し、系統性を明確にしたためである。内容の系統性を図る中で、「Ａ家族・家庭生活」においては、少子高齢社会の進展に対応して、家族や地域の人々とよりよく関わる力を育成するために、「幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わりについても扱うこと」としている。この学習は、地域の人々とのつながりや信頼を深め、地域への親しみや愛着をもたらすなど、共に協力し合って生活していることに気付けるようにすることが重要である。また、今回の改訂では、家庭や地域と連携を図った「Ａ家族・家庭生活」（４）「家族・家庭生活についての課題と実践」が新設され、これまでに学習した知識及び技能などを活用し、生活をよりよくしようと工夫する能力や実践的な態度を育てることを新たに示している。ここでは、（２）「家庭生活と仕事」又は（３）「家族や地域の人々との関わり」で身に付けた知識や生活経験を基に、生活を見つめることを通して、問題を見いだし、児童の興味・関心に応じて「Ｂ衣食住の生活」や「Ｃ消費生活・環境」で学習した内容と関連させて、課題を設定できるようにする。課題の解決に向けては、これまでの学習で身に付けた知識及び技能などを活用して、家庭や地域の人々と関わりながら実践できるようにし、自分だけでなく家族や地域の人々にとってよりよい生活とはどのようなものなのかを考えられるようにすることが重要である。

群馬県では、平成30年度学校教育の指針の重点項目として、「生活の中から課題を設定し、家庭・地域で実践する活動を題材の指導計画に位置付ける」、「実践的・体験的な活動を通した気付きや考えを基に、次の学習に活用したり、日常生活に応用・発展したりできるまとめをする」と示されている。そこで、主体的に学び、習得した知識や技能を日常生活の中で活用できるようにするために、まず、実践的・体験的な活動を行った際の気付きや考えをまとめ、共有する活動を通して、地域の人々と協力することの大切さを知る。次に、共有した気付きや考えを振り返ったり、これまでの生活を見つめたりすることを通して、生活をよりよくするための課題を設定し、地域で実践する活動を指導計画に位置付ける。また、「Ａ家族・家庭生活」（３）「家族や地域の人々との関わり」、（４）「家族・家庭生活についての課題と実践」を実施する際は、「Ｂ衣食住の生活」や「Ｃ消費生活・環境」と関連付けて指導するなど、題材構成を工夫する。

研究協力校（以下、協力校）の家庭科学習における実態を見ると、「Ａ家族・家庭生活」（３）「家族や地域の人々との関わり」の学習については、他の内容の学習と比較して、児童の興味・関心が低い。その原因として、日常生活で地域の人々と関わる経験が少なく、関わり方も分からないため、家庭と地域がつながっていることを実感できないのではないかと考える。また、家庭や地域のことは身近であり、当たり前のこととして捉えているため、改めて考える機会がないといった理由も考えられる。

そこで、本研究では、製作などの実習の支援に地域の人々との関わりを取り入れ、その体験的な活動を通した気付きや思いをまとめ、共有することで、地域の人々への理解を深める。さらに、既習事項を活用して、新設の題材「家族・家庭生活についての課題と実践」を実施することで、地域の人々との関わりを考え、生活をよりよくしようとする態度を育むことができると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

小学校家庭科「Ａ家族・家庭生活」において、地域の人々との関わりを考え、生活をよりよくしようとする態度を育むために、「地域の人々への思いを広げる学習」と「地域の人々との関わりを深める学習」の二つの題材を「関わりマップ」を活用して、段階的に構成することの有効性を明らかにする。

Ⅲ　研究仮説（研究の見通し）

１　地域の人々への思いを広げる学習

Ａ（３）「家族や地域の人々との関わり」において、「関わり体験」を行い、体験を通しての気付きや思いを「関わりマップ」で共有し、地域の人々と協力することの大切さを知ることで、地域の人人に関心をもち、自分にできることを考えることができるであろう。

２　地域の人々との関わりを深める学習

Ａ（４）「家族・家庭生活についての課題と実践」において、「関わりマップ」を活用することで、生活をよりよくするための課題を捉え、課題解決を図る。その後、実践発表会を通して、友達の実践の工夫やよさを認め合ったり、参考にしたりすることで、新たな課題を見いだし、地域の人々との関わりを考え、生活をよりよくしようとする態度を身に付けることができるであろう。

Ⅳ　研究の内容

１　基本的な考え方

(1)　「地域の人々との関わりを考える」とは

児童が日常生活を送っている学校区において、そこに住んでいる人や、仕事をしている人と交流を深めることで、良好な関係を築いていこうとすること。具体的には地域の人々との会話、地域で実施されている行事への参加や、「関わり体験」を通して、自分の生活は地域の人々との関わりで成り立っていること、家庭生活は地域の人々と関わることでより豊かになることを知り、よりよい生活を送るために児童自ら、どのようにしたらよいのかを考えること。

(2)　「生活をよりよくしようとする態度」とは

自分の日常生活を見つめ、見いだした課題の解決に向けて、既習の知識や技能を活用し、自分にできることを実践すること。さらに、改善策を考えることで、新たな課題を見いだし、実践するなど、自分たちの生活をよいものにしていこうとする態度のこと。

(3)　「関わり体験」とは

「Ｂ衣食住の生活」における実習時間に地域の人々をゲストティーチャーとして招聘し、実習のサポートをしてもらいながら関わりをもつこと。実習を通して、児童が「地域の人と関わることができた」「優しい人がたくさんいることが分かった」「玉結びと玉どめができた」「しつけのやり方が分かった」というような「Ａ家族・家庭生活」と「Ｂ衣食住の生活」の二つの内容に関わる達成感を味わうことができる場面を設定する。ゲストティーチャーの方とは事前の打合せを十分に行い、児童が達成感を味わうことができるようなアドバイスや言葉掛けをお願いしておく。児童が地域の人々との関わりについて関心をもち、地域の人々と関わることに対して、肯定的に捉えることができるようにする。

(4)　「関わりマップ」とは

ゲストティーチャーの方からのメッセージと、「地域の人々への思いを広げる学習」における各学習過程での児童の思考を可視化し、共有するためのもの。１枚の紙に以下の①～③の内容が表されている（図１）。

①　「関わり体験」終了後にゲストティーチャーの方にメッセージを記入してもらう。児童は「関わり体験」を通しての気付きや思いを記入する。

②　「関わり体験」を通して、家庭生活が地域の人々との関わりで成り立っていることの大切さ

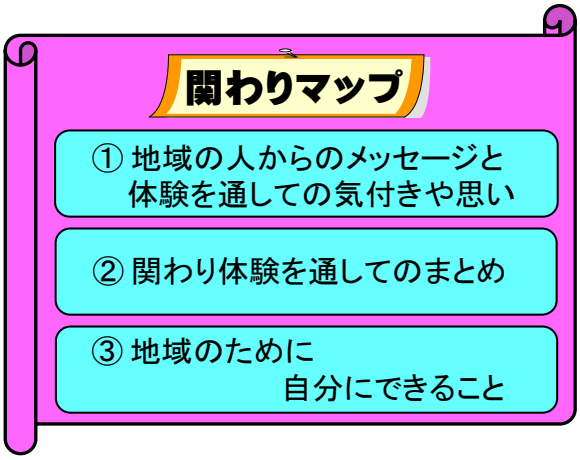

図１　「関わりマップ」概要

についてまとめる。次に、地域の人々と協力することの大切さをグループで考え、一般化して記入する。

③　地域に対する思いを広げ、地域のために自分にできることを考え、記入する。

２　題材構成について

(1)　地域の人々への思いを広げる学習（題材名「共に生きる生活」）

「地域の人々への思いを広げる学習」とは、「関わり体験」を通して地域の人々と関わることに関心をもち、気付きや思いを「関わりマップ」で共有することにより、地域の人々と協力することの大切さを知り、自分にできることを考えることをねらいとしている。

本題材は、小学校学習指導要領「Ａ家族・家庭生活」（３）「家族や地域の人々との関わり」について実施するものである。

「地域の人々への思いを広げる学習」での各過程における学習内容と「関わりマップ」の関係については、以下図２の通りである。

過程	学習内容	「関わりマップ」の作成
つかむ	○地域で実施されている行事などの共通体験を想起し、これまでの生活を見つめ、地域に目を向け、関心をもつ。	
	○地域の人々との関わりを考え、学習課題を設定する。	
追究する	○「関わり体験」を行う。 「衣生活」における実習時間に地域の人々をゲストティーチャーとして招聘し、実習サポートの形で実施する。	○「関わり体験」終了後に、地域の方にメッセージを書いてもらう。
	○「関わり体験」を通しての気付きや思いをまとめる活動を行い、「関わりマップ」を作成する。	○「関わり体験」を通しての気付きや思いを記入する。 ○家庭生活が地域の人々との関わりで成り立っていること、地域の人々と協力することの大切さを考え、一般化して記入する。
まとめる	○自分にできることを考え、地域で実践を行う。	○地域のために自分にできることを考え、記入する。

図２　「地域の人々への思いを広げる学習」での各過程における学習内容と「関わりマップ」の関係

(2)　地域の人々との関わりを深める学習（題材名「感謝の気持ちを伝えよう」）

「地域の人々との関わりを深める学習」とは、日常生活を見つめ、生活をよりよくするための課題を設定し、これまでの学習で得た知識や技能を活用し、地域の人々と関わりながら、課題解決を図ることをねらいとしている。

本題材は、小学校学習指導要領「Ａ家族・家庭生活」（４）「家族・家庭生活についての課題と実践」について実施するものである。小学校学習指導要領解説家庭編（平成29年７月）では、（２）「家庭生活と仕事」又は（３）「家族や地域の人々との関わり」の学習を基礎とし、「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」で学習した内容との関連を図り、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考えたことを表現するなどの学習を通して、課題を解決する力と生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うことをねらいとしている。

本研究では、「地域の人々への思いを広げる学習」で身に付けた知識や生活経験と、「Ｂ衣食住の生活」での実習時間に行った「関わり体験」、既習事項である「衣生活」の内容を基に実施し、自分だけでなく地域の人々にとってよりよい生活とはどのようなものなのかを考えられるようにした。指導計画の作成に当たっては、家庭や地域で実践的な活動ができるように地域の行事と関連付

けて実施したり、長期休業などを利用して各家庭で行ったりすることもできるが、本研究では、実践の一部を授業時間に組み込んで実施することとした。

「地域の人々との関わりを深める学習」での各過程における学習内容と「関わりマップ」の関係については、以下図３の通りである。

過程	学習内容	「関わりマップ」の活用
つかむ	○「地域の人々への思いを広げる学習」で行った各自の実践を紹介し合う。	○家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることや、地域の人々との協力が大切であることを振り返る。
	○日常生活を見つめ、生活をよりよくするための各自の課題を設定する。	○地域の人々がどのような思いを抱いているのかを確認する。
追究する	○課題解決を図るための実践計画書を作成する。 ○実践計画書を基に、感謝の気持ちを伝える小物を製作する。「Ｂ衣食住の生活」における「衣生活」と関連付けて実施する。布を用いた小物を製作し、感謝の気持ちを伝える。	○日常生活で、関わりがある地域の人々を確認する。 ○家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることや、地域の人々との協力が大切であることを振り返る。
	※授業時間外に、製作した小物を渡しながら、地域の人に感謝の気持ちを伝え、関わりをもつ。	○どのような態度で地域の人々と関わったらよいのかを確認する。
まとめる	○実践発表会を行う。友達の発表を聞き、工夫やよさを認め合ったり、自身の実践を振り返ったりして、改善策を考える。	

図３　「地域の人々との関わりを深める学習」での各過程における学習内容と「関わりマップ」の関係

３　研究構想図

Ⅴ　研究の計画と方法

１　授業実践の概要

対象	協力校　第６学年　３学級（計86人）
実践期間	①平成30年７月・９月
	②平成30年10月～11月
題材名	①共に生きる生活 ・わたしたちの生活と地域 「Ａ家族・家庭生活」（３）「家族や地域の人々との関わり」 ・楽しく ソーイング　計画を立てて作ろう 「Ｂ衣食住の生活」（５）「生活を豊かにするための布を用いた製作」 ・考えよう これからの生活 「Ａ家族・家庭生活」（３）「家族や地域の人々との関わり」
	②感謝の気持ちを伝えよう 「Ａ家族・家庭生活」（４）「家族・家庭生活についての課題と実践」
学習内容	①共に生きる生活 ・共通体験を想起し、学習課題を設定する授業 ・地域の人々との「関わり体験」を取り入れた授業 ・「関わり体験」を通した気付きや思いをまとめ、「関わりマップ」を作成する授業
	②感謝の気持ちを伝えよう ・日常生活を見つめ、生活をよりよくするための課題を設定し、解決を図る授業 ・実践発表会を行う授業

２　検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し１	「関わり体験」を行い、体験を通しての気付きや思いを「関わりマップ」で共有し、地域の人々と協力することの大切さを知ることは、児童が地域の人々に関心をもち、自分にできることを考えるために有効であったか。	○ワークシートの分析 ○授業前と授業後の児童アンケート分析 ○児童の発言分析 ○「関わりマップ」の分析
見通し２	「関わりマップ」を活用することで、生活をよりよくするための課題を捉え、課題解決を図る。その後、実践発表会を通して、友達の実践の工夫やよさを認め合ったり、参考にしたりしたことは、新たな課題を見いだし、地域の人々との関わりを考え、生活をよりよくしようとする態度を身に付けるために有効であったか。	

３　抽出児童

A	家庭科学習の全ての内容において高い興味・関心を示している。家庭生活で日常的に手伝いをしており、休み時間に「家で片付けをやってみたよ」という具体的な話を聞くことができる。地域の人々と積極的に関わりをもち、地域で実施されている様々な行事に参加している。本題材を通して、既習事項を活用し、地域の中で自分にできることを積極的に実践できるようにさせたい。
B	地域の人々との積極的な関わりはなく、家庭科学習における「家族や地域の人々との関わり」についての興味・関心もやや低い。家庭生活で日常的に手伝いをすることはないが、学習したことを家庭で実践する課題を課すと、他の児童の見本となるような報告をすることができる。本題材を通して、地域の人々と関わり、地域の中で自分にできることを実践できるようにさせたい。
C	家庭科学習についての興味・関心は低い。家庭生活で手伝いをしようとする意識は高く、弟妹の面倒をよく見ている。また、地域の行事には参加しているが、地域の人々と関わることについては意識していない。本題材を通して、家庭生活や地域に目を向け、関心をもてるようにさせたい。

4　評価規準

「共に生きる生活」（３）「家族や地域の人々との関わり」

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
家庭生活と地域の人々との関わりに関心をもち、自分の生活をよりよくしようとしている。	家庭生活と地域の人々との関わりについて課題を見付け、よりよい関わりを考え、工夫している。		家庭生活が地域の人々との関わりで成り立っていることや、協力し、助け合っていく必要があることについて理解している。

「感謝の気持ちを伝えよう」（４）「家族・家庭生活についての課題と実践」

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
お世話になっている地域の人々に関心をもち、感謝の気持ちを伝えて、生活をよりよくしようとしている。	地域の人々との関わりについて課題を見付け、その解決に向けて、既習の知識と技能を活用して計画を立て、よりよい生活を送るための工夫をしている。		

5　指導計画

「共に生きる生活」（３）「家族や地域の人々との関わり」

	学習活動	研究上の手立て	児童の意識（振り返り）
つかむ ２時間	○地域（の人）とは何かを考える。 ○地域には様々な年代の人が生活しており、様々な場面で関わりがあることに気付く。 めあて 「地域の人々と関わるとはどのようなことなのかを考えよう」	○地域で行われている行事の写真を提示したり、これまでの生活を見つめたりして、地域の人とどのような場面で、どのような関わりをしてきたのかを想起させる。	☆地域にはいろいろな年代の人がいるんだな。 ☆地域の人々と関わっている実感がないから、どのように関わったらよいのか分からないな。
	○地域の人々が私たちの生活にどのように関わっているかを考える。 ○学習課題を設定する。 めあて 「地域の人々とよりよく関わるために、どのような学習をしたらよいか考えよう」	○毎日の登下校時や通学路、地域で行われている行事や活動の写真を提示し、地域の様子を共有させる。 ○地域の人々との関わりについて知りたいことや、できるようになりたいことを発表させる。	☆これから地域の人々と関わっていくのだな。 ☆みんなで楽しい生活が送れるようになりたいな。
	学習課題　「地域の人々と協力して、みんなが楽しく生活できるようになろう」		
追究する ３時	○「関わり体験」をする。 めあて 「地域の人々の協力を得て、ナップザックを作ろう」	○地域の人々にゲストティーチャーとして来校してもらい、「Ｂ　衣生活」の実習時間に「関わり体験」をさせる。 ○関わり体験後、ゲストティーチャーの方に児童へのメッセージ（頑張っていたところや励ましのメッセージなど）を書いてもらう。	☆地域の人に優しく声を掛けてもらえて嬉しかったよ。 ☆地域の人にしつけのやり方を教えてもらったよ。

間 2時間は「B衣生活」	○「関わり体験」での気付きや思いをまとめ、共有する。 めあて 「地域の人々との関わりを通して、気付いたことを「関わりマップ」に表そう」	○ゲストティーチャーの方からのメッセージを伝えることで、地域の人々がどのような思いを抱いているのかに気付かせる。 ○「関わり体験」を通して気付いたことや思ったことを各自で記述させる。 ○家庭生活が地域との関わりで成り立っていることを「関わりマップ」にまとめ、地域の人人と協力することの大切さを一般化する。	☆地域の人ともっと関わっていきたいな。 ☆地域の人と協力することで、みんなが住みやすい地域になるんだな。
まとめる1時間	○地域の人々と協力することの大切さや、家庭生活が地域とつながっていることを踏まえ、自分にできることを考える。 めあて 「地域の中で、自分に協力できることを考えよう」	○「関わりマップ」を共有することで気付いたことを活用し、自分にできること、やってみたいことを考え、授業時間外に実践できるようにさせる。	☆地域の人に優しくしてもらえて嬉しかったから、僕も地域の人に優しくしたり、元気に挨拶したりしてみたいな。

「感謝の気持ちを伝えよう」（4）「家族・家庭生活についての課題と実践」

	学習活動	研究上の手立て	児童の意識（振り返り）
つかむ 1時間	○地域での実践活動を振り返る。 ○日常生活を見つめ、よりよい生活を送るための各自の課題を設定する。 めあて 「日常生活を見つめ、お世話になっている人を考えよう」	○日常生活を見つめたり、「関わりマップ」を活用したりすることで、既習事項を振り返らせる。 ○お世話になった地域の人々を想起させ、どのようにしたら感謝の気持ちを伝えることができるのかを話し合わせる。	☆これまでに習ったことを生かして感謝の気持ちを伝えたいな。
	学習課題　「自分たちができることを生かして、お世話になっている地域の人に感謝の気持ちを伝えよう」		
追究する 3時間	○課題の解決に向けて計画を立てる。 ○各自の計画に基づいて、布を用いた小物を製作する。 ○地域の人と関わりながら気持ちを伝える。 めあて 「感謝の気持ちを伝えるための計画を立て、実践しよう」	○「関わりマップ」や既習事項を活用して、気持ちを伝えるための計画を立案させる。 ○既習の知識や技能を確認できるように、出来上がり作品例や基礎縫い見本を提示する。 ○地域の人に感謝の気持ちを伝えながら、出来上がった作品を手渡せるようにする。	☆よりよい計画になるように、見直しをしたよ。 ☆計画通りにできるように小物作りを頑張りたいな。 ☆お世話になった人たちのことを考えて作ったから、喜んでもらえると嬉しいな。
まとめる1時間	○各自が実践した内容を実践発表会で共有する。 めあて 「実践発表会を通して、学習を振り返り、今後の生活をよりよくする方法を考えよう」	○友達の工夫した点や、頑張ったこと、どのような思いが込められているのかを聞き、今後の自分自身の取組の参考にさせる。	☆友達の工夫を参考にして、地域や地域の人のためにできることをやってみたいな。

Ⅵ　研究の結果と考察

１　「地域の人々への思いを広げる学習」について

(1)　全体の様子

つかむ過程では、これまでの生活を見つめたり、地域で実施されている行事を想起させたりして、地域や地域の人々の定義を共通理解して捉えたことで、学習課題「地域の人々と協力して、みんなが楽しく生活できるようになろう」を立てることができた。

追究する過程では、「関わり体験」を行った（図４）。４、５名の児童のグループに対して、１、２名のゲストティーチャーの方が付き、「修学旅行に持って行くナップザックを作ろう」の授業で、印付けとしつけの作業を行った。「関わり体験」中に教師は、不安そうな表情をしている児童や、作業が進んでいない児童に対して「話はできましたか」「分からないことは自分で聞けましたか」などの声掛けを行った。ゲストティーチャーの方は、優しく、丁寧な言葉遣いで児童に接し、温かい眼差しで見守りながらアドバイスをしてくれた。

図４　「関わり体験」

「関わり体験」終了後に、「関わりマップ」を作成した（図５）。まず、「関わり体験」終了後にゲストティーチャーの方にメッセージを記入してもらい、児童は「関わり体験」を通しての気付きや思いを記入した（図５①）。ゲストティーチャーの方からの「一生懸命取り組んでいる姿に感動しました」「ありがとうの言葉が嬉しかったです」「一緒に授業ができて私も楽しく過ごすことができました」などの励ましや称賛の言葉を聞いて、嬉しそうな表情をしている児童が多く見られた。児童からは「いろいろなことを知っていてすごい」「優しくしてもらって嬉しかった」「応援してもらっているからもっと頑張ろうと思った」と前向きな感想を聞くことができた。次に、「関わり体験」を通して、地域の人々と協力することの大切さや、家庭生活が地域の人々との関わりで成り立っていることについてグループで考え、一般化した（図５②）。地域の人々と関わることの大切さをグループで考える際は、考えがまとまらず、話合いがスムーズに進まない場面も見受けられたが、これまでの生活を見つめたり、共通体験を想起したりすることで、全てのグループが家庭生活は地域の人々との協力が大切であることに気付くことができた。

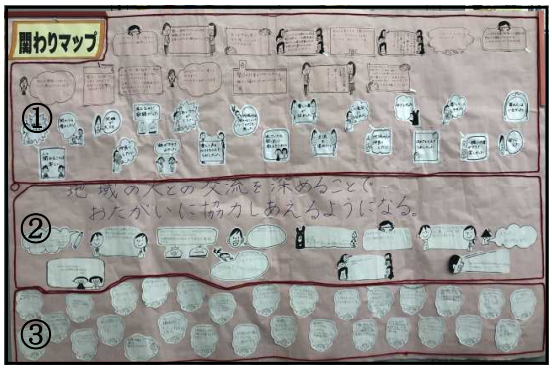

図５　「関わりマップ」

まとめる過程では、地域に対する各自の考えや思いを広げ、自分にできることを記述した（図５③）。児童の具体的な記述例として、「積極的に挨拶をして、交流を深めていきたい」「地域の行事に参加することで、地域の人との関係が深まり、会話がしやすくなる」「これからは、地域の人と交流を深めて、もしもの時に助ける、助けられる関係になりたい」などがあった。これを踏まえ、「関わりマップ」②でのまとめや友達の記述を参考にしながら、自分にできることを考え、家庭や地域で実践活動を行った。「関わりマップ」を参考にして考えたこと（図６）では、「自分から積極的に挨

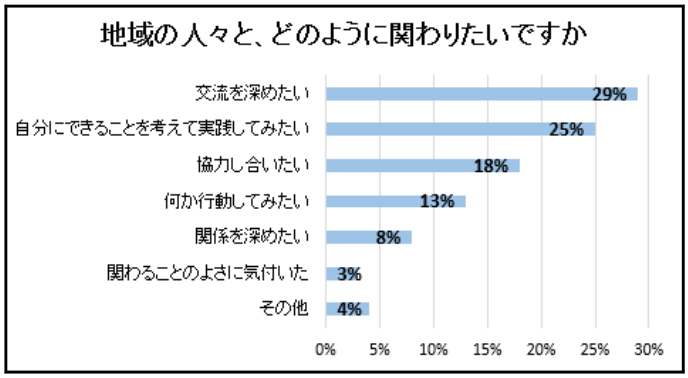

図６　「関わりマップ」を参考にして考えたこと

拶をしたり、地域で行われている行事へ参加することによって、地域の人々と交流を深めたい」という児童が29%、「自分にできることを考えて、できることから実践したい」という児童が25%、「地域の人々と協力し合いたい」と考えた児童が18%、「やってみたいことは明確になっていないが、関係を深めるために何か行動してみたい」という児童が13%であった。

以上のことから、「関わりマップ」に可視化された友達の思いを参考にすることで地域に対する自分の考えや思いを広げることができた。また、「関わりマップ」に気付きや思いをまとめ、可視化したことは、地域の人々と協力することの大切さを理解し、自分にできることを考えるために有効であったと言える。

(2) 抽出児童の様子

つかむ過程では、学習課題を考える際に、地域の人々との関わりで知りたいこと、できるようになりたいことについて抽出児童は図７のように記述した。

追究する過程では、「関わり体験」終了後に図７のような感想や気付きがあった。

学習過程	抽出児Ａ	抽出児Ｂ	抽出児Ｃ
つかむ	（行事に参加して、関わりはあるけど、）仲よくなるためにはどうすればいいか知りたい。	自分にできることを考えたい。例えば、ごみについて注意してみたい。	近所の人と自然に挨拶できるようになって、触れ合えるようになりたい。
追究する	地域の人が分からない事を教えてくれてよかった。みんなに教えていてすごいなと思った。一緒に（作業を）やるととても楽しくてよかった。	地域の人はとても親切にしてくれて、頼りになると分かった。地域の人との助け合いが自分にとっても、相手にとっても重要なのだと思った。	あまり普段は、地域の人たちと関わり合わなかったけど、今日は話せてよかった。

図７　つかむ過程、追究する過程での記述

Ａは、これまでの生活の中で、地域の人々と関わる経験があったことから、関わることに関して抵抗がない。これまでの学習の様子から、裁縫に対して苦手意識があるが、分からないことをゲストティーチャーの方に質問したり、具体的な作業の仕方を教えてもらったりしていた。授業後も学校のことや、地域の行事の話をしながら関わることができた。「関わり体験」を通して、地域の人人の優しさや、関わることの楽しさに改めて気付くことができた。Ｂは、「関わり体験」で積極的に関わることはできなかったが、ゲストティーチャーの方に声を掛けられると、礼儀正しく接することができ、地域の人々と関わることについて前向きに捉えることができた。また、地域の人々と協力することは、地域をよくしていくために必要なことであり、助け合うことが自分にとっても、相手にとっても重要なことであると気付くことができた。Ｃは、これまでの生活の中で、地域の人々との関わりを意識していない。「関わり体験」では硬い表情をしていたが、作業を進める中で、ゲストティーチャーの方にたくさん褒めてもらい、「地域の人ってなんか嬉しいね」と言っていた。

「関わりマップ」を作成する場面で、地域の人々と関わることの大切さをグループで考える際に、Ａはこれまでの自分の経験を話したり、友達の意見を引き出したりして意欲的に活動していた。Ｂは、友達の意見を聞く中で、「地域の人々と交流を深めることは（関わることは）、助け合いにつながるんだな」と考えることができた。Ｃは、「関わり体験」で、ゲストティーチャーの方にたくさん褒めてもらえたことが印象に残っていたようで、「挨拶や交流を深めることで協力し合える」と考えることができた。

まとめる過程で、Ａは、地域の人々との交流を深めるために挨拶をし、これからも地域の行事に参加したいと記述していた。また、ゲストティーチャーの方からの「一生懸命に取り組んでいる姿に感動しました」というメッセージを見て、自分が一生懸命取り組めそうなことは何かを考え、「大好きなお祭りに参加した時に手伝い（ごみ拾い）ができるのではないか」「手伝いをしながら交流を

深め、地域の人と仲よくしていくことで町がよくなっていくのではないか」と考えることができた。Ｂは、「自分から大きな声で挨拶をして、地域の人とたくさん話すようにしたい。家の人と一緒に廃品回収に参加したり、回覧板を回しに行ったりしたい」と具体的に記述することができた。Ｃは、考えがまとまらず、悩んでいるようであったが、「関わりマップを参考にしていいんだよ」と声を掛けると、「関わりマップ」のゲストティーチャーの方からの励ましや称賛のメッセージと、「関わり体験」を通してのまとめを参考にして、自分にできそうなことを考え、「挨拶をしないで通り過ぎると何かちょっと気持ちがもやもやするから、挨拶をきちんとしてすっきりしたい」と記述していた。

以上のことから、「関わり体験」を行い、気付きや思いを「関わりマップ」にまとめ、共有したことで、Ａは、これまで以上に地域の人々と関わり、地域の行事に参加した際は、自分にできることを積極的に実践していきたいという意欲をもつことができた。Ｂは、地域の人々と関わることについて前向きに捉え、地域の人と助け合うことが地域のためになることを理解し、自分に協力できそうなことを考え実践しようという気持ちをもつことができた。Ｃは、地域の人々の優しさに触れ、地域の人々と関わることについて関心をもつことができた。

２　「地域の人々との関わりを深める学習」について

(1)　全体の様子

つかむ過程では、地域での実践活動を紹介し合い、家庭生活が地域の人々との協力で成り立っていることを再確認した。その際、「関わりマップ」を活用して、地域の人々と協力することの大切さを振り返った。「関わりマップ」に、各学習段階における児童の思考を可視化したことで、既習事項を振り返ったり、日常生活を見つめたりする場面では、自然な流れで進めることができた。その中で、児童は、これまで様々な場面で関わってきた地域の人々について想起し、多くの人々に見守られ、支えてもらっていることを再確認することができた。本題材での学習課題を「自分たちができることを生かして、お世話になっている地域の人に感謝の気持ちを伝えよう」と設定した。その後、地域の人々とどのような場面で、どのように関わっているのかを話合いによって想起し、その中から、自分の気持ちを伝えたい相手や、どのような思いを伝えたいのかを考えた。登下校の見守りをしている交通指導員さんや、近所の人、「関わり体験」でお世話になったゲストティーチャーの方々を想定し、図８のような思いから、「いつもお世話になっている地域の人に感謝の気持ちを伝えたい」と考える児童が多かった。

交通指導員さん
・朝早くから、みんなを見守ってくれているから。 ・毎朝、明るく挨拶をしてくれるから。
近所の人
・困っていた時に助けてもらったから。 ・小さい時からお世話になっていて、今も回覧板を持って行くと優しくしてくれるから。 ・おすそわけをしてくれるから。 ・いつも声を掛けてくれるから。
「関わり体験」のゲストティーチャーの人
・優しく教えてくれて嬉しかったから。 ・玉どめを教えてくれたから。

図８　抽出児クラスの記述

追究する過程では、これまでの学習で得た知識や技能を活用して、各自が決めた地域の人に、感謝の気持ちを伝える時に渡す小物作りの計画書を作成した。計画を立てた後に、計画内容をペアで検討することで、布と縫い糸の色の組み合わせを考えたり、気持ちを伝える相手のイニシャルを縫い取りしたり、装飾としてアップリケを付けたりするなど、よりよい計画となるような工夫をすることができた。

まとめる過程では、グループ毎に実践発表会を行った。友達の実践発表を聞くときは、今後の自分の実践につなげることができるような工夫やアイディアを探したり、よいところを見つけたりしたことで、お互いの実践を称賛し合う、穏やかな雰囲気の中で進めることができた。また、友達の実践を参考にしながら、自分自身の実践を振り返ったり、改善策を考えたりすることで、「次の実践をよいものにしたい」「自分にできることを実践していきたい」という意欲を育むことができた。

具体的には、「地域で行われている行事に積極的に参加して、仲よくしたい」「行事のお手伝いをしたい」「地域の役に立ちたいので、ボランティア活動に参加したい」「地域のクリーン活動やごみ拾いをしたい」「相手（地域の人）が喜んでくれることを考えて挑戦したい」との記述を見ることができた。

実践後のアンケート結果では、「実践発表会での友達の発表はこれからの自分の実践に役立ちそうですか」の問いに対して、「役に立つ、少し役に立つ」と答えた児童は88％であった（図９）。その理由として、「友達の発表を聞くと、自分とは違う考えを聞けて、新たな発見があるから」(24人)、「できそうなことが増えるから」（８人)、「課題を考えるときの参考になるから」（８人）などの記述が見られた。また、友達の発表が「あまり役に立たない、役に立たない」と回答した児童の理由として、「みんな同じような実践内容だから」「やっていることが難しくてできないと思うから」という記述が見られた。

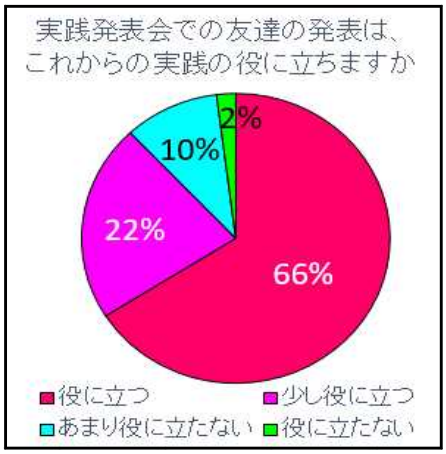

図９　実践発表会の効果

今回の授業をきっかけに、「地域の中で、自分にできることをやってみようという気持ちがありますか」との問いに、85％の児童が「ある、少しある」と答えた（図10)。「あまりない、ない」と答えた児童の中には、「自分には難しい」「(習い事の予定などで）時間がなくてできない」「(授業ではやったけど、一人でやる）自信がない」という記述が見られた。

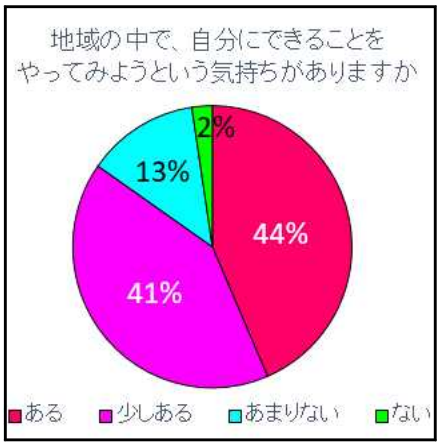

図10　実践意欲に関する調査

以上のことから、地域の人々と関わりながら実践活動を行い、自分自身の実践を振り返って、改善策を考えたことは、地域の人々と関わり、自分にできることを考え、実践しようとする態度を育むために有効であったと言える。

本題材の学習前後に「家族や地域の人々との関わりの学習についてどのくらい興味・関心がありますか」とアンケートを行った。その結果、学習前は60％の児童が「ある、少しある」と答えていたが、学習後は74％の児童が「ある、少しある」と答えた（図11)。

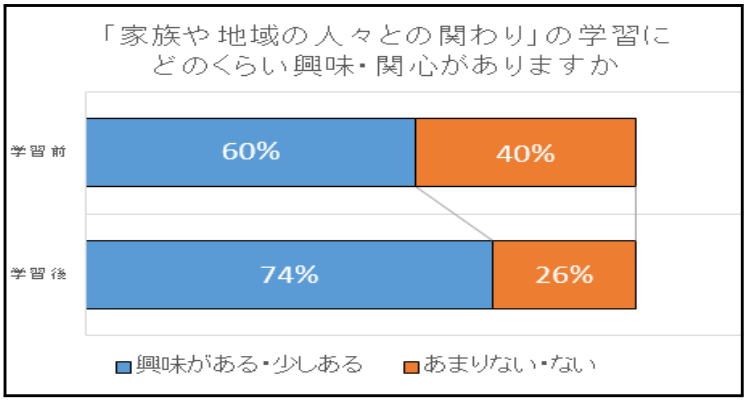

図11　学習前後の実態調査

以上のことから、「地域の人々への思いを広げる学習」と「地域の人々との関わりを深める学習」の二つの題材を段階的に構成し、指導することは、地域の人々との関わりを考え、生活をよりよくしようとする態度を育むために有効であったと言える。

(2)　抽出児童の様子

つかむ過程では、各自が家庭や地域での実践活動を紹介し合った。地域での実践活動を通して、日常生活を見つめ、感謝の気持ちを伝えたい相手を考え、生活をよりよくするための各自の学習課題を設定した。Ａは、自身が積極的に参加している行事でお世話になっている人を挙げた。Ｂは日常生活で関わりがある人を３名挙げ、その中で、一番身近な人を選んだ。Ｃは、誰に気持ちを伝えたらよいのか考えが浮かばない様子だったので、「地域にはどんな人がいたのかな？関わりマップ

を参考にしてもいいんだよ」と声を掛けたところ、黒板に掲示してある「関わりマップ」を見て、「関わり体験」でお世話になった地域の人に気持ちを伝えることを決めた。A、B、Cの気持ちを伝えたい相手は図12の通りである。

追究する過程では、それぞれの思いで計画を立案することができた（図12）。Aは、気持ちを伝えたい相手のことを考えて、色や形に気を配ることができた。Bは、教科書を参考にし、習得した技能を活用して、飾り付けを工夫した小物を製作することができた。Cは、友達のアドバイスを参考にしながら、どのような物を作ったら気持ちを伝えることができるのかを考え、計画を立て、製作することができた。それぞれの抽出児童が、既習の知識や技能を生かして、気持ちを伝える作品を作り上げることができた。

	気持ちを伝えた相手	理由
A	地域の行事（お祭り）でお世話になっている近所の人（女性）	お祭りに行くといつも僕たちを楽しませてくれるから。いつもありがとうと、これからもよろしくお願いしますという気持ちを伝えたい。
B	協力校に勤務している技術員さん	学校で僕たちが安全に過ごせるように修理をしてくれたり、学校をいつもきれいにしてくれるから感謝の気持ちを伝えたい。
C	「関わり体験」でお世話になったゲストティーチャーの方	家庭科の授業で褒めてもらえて嬉しかったから。いろいろなことを教えてくれたから。

図12　抽出児の計画書の記述

まとめる過程では、抽出児童A、B、C共に、自分の実践内容を発表することができた。Aは自身の発表について、友達にアドバイスを求め、どのようにしたらよりよい実践になるのかを考えていた。「地域の人々との関わり」の題材に高い興味・関心を示していたことから、終始楽しく授業を受け、地域の人々と関わることに関して非常に前向きであった。話合いをしている時に、「地域の人はみんな優しいよ」と言っている姿を何回か見聞きすることができた。振り返りのワークシートには「今後も、地域の行事に積極的に参加し、自分にできることを手伝っていきたい」と記述している。このことから、地域の人々と協力することの大切さを理解し、地域の中で自分にできることを具体的に考え、積極的に実践できるようになったと言える。Bは、計画立案の段階で悩んでいる様子であった。しかし、実践を通して、相手の立場に立って工夫をしたり、実際に気持ちを伝える場面では、感謝の言葉を述べたりすることができた。また、気持ちを伝えた相手の人に喜んでもらえたことで、関わることに自信が付き、「今後の生活で自分にできることから実践していきたい」という意欲をもつことができた。実践発表会では、友達の発表を聞くことで、「自分自身も地域の人も気持ちよく暮らすために、自分にできることとして、地域の人々と会話をしていきたい」と新たに考えることができた。Cは、問題を見いだしたり、計画を立てたりする場面で自分の考えがまとまらなかったが、「関わりマップ」を参考にしながら実践をやり遂げることができた。振り返りのワークシートには、「自分が知らない人に声を掛けるのは恥ずかしいけれど、地域のごみ拾いならできそう」と記述し、地域の人々と関わることについて関心をもち、自分にできることを考えることができた。

以上のことから、「関わりマップ」を活用してこれまでの生活を見つめることで、生活をよりよくするための自分の課題を捉え、計画を立て、実践することができた。また、実践発表会を通して友達の実践の工夫やよさを認め合ったり、参考にしたりすることで、地域の人々との関わりに関心をもち、生活をよりよくしようとする態度を育むことができたと言える。

Ⅶ　研究のまとめ

1　成果

○　「関わり体験」を行い、「関わりマップ」に気付きや思いを可視化することで、地域の人々との関わりに関心をもち、地域の人々との協力が大切であることに気付き、自分にできることを考

えることができた。

○　「関わりマップ」を活用して、既習事項を振り返ったり、日常生活を見つめたりすることで、地域の人々との関わりを考えて各自の課題を設定し、課題を解決するために知識や技能を活用して、計画を立案することができた。「実践発表会」を通して、友達の実践内容や工夫を聞いたり、グループで話合いをしたりすることで、生活をよりよくするための新たな課題を見いだすことができた。

○　「地域の人々への思いを広げる学習」と「地域の人々との関わりを深める学習」の二つの題材を段階的に構成し、指導することで、地域の人々との関わりを考え、生活をよりよくしようとする態度を育むことができた。また、題材構成を工夫することで、限られた授業時数の中で効果的に学習を進めることができた。

２　課題

○　「地域の人々との関わりを深める学習」では、地域の人々と関わることに心配や不安を抱いている児童もいたので、様々な題材で中長期的に地域の人々との「関わり体験」を取り入れたり、幅広い異なる世代（幼児や低学年の児童）との関わりを取り入れたりすることが必要である。

○　地域の人々との関わりについて、これまでの生活を振り返る際は、身近な地域での活動や行事での共通体験を取り上げるようにする。その際、下学年で実施された総合的な学習の時間や、特別活動など、他教科における交流活動と関連させることも考えていく必要がある。

Ⅷ　提言

題材と題材のつながりを考えて構成したり､他の内容との組み合わせを工夫したりすることによって、限られた時数の中で、既習の知識や技能を活用しながら自己の課題解決を図り、生活をよりよくしようとする態度を育むことができると考える。

＜参考文献＞

・文部科学省　『小学校学習指導要領解説家庭編』　　(2018)
・文部科学省　『中学校学習指導要領解説技術・家庭編』　　(2018)
・群馬県教育委員会　『はばたく群馬の指導プラン』　　(2012)
・群馬県教育委員会　『はばたく群馬の指導プラン　実践の手引き』　　(2014)
・長澤　由喜子　編著　『新学習指導要領の展開』　　明治図書出版（2017）

＜担当指導主事＞

土屋　真美　　清水　幸治